



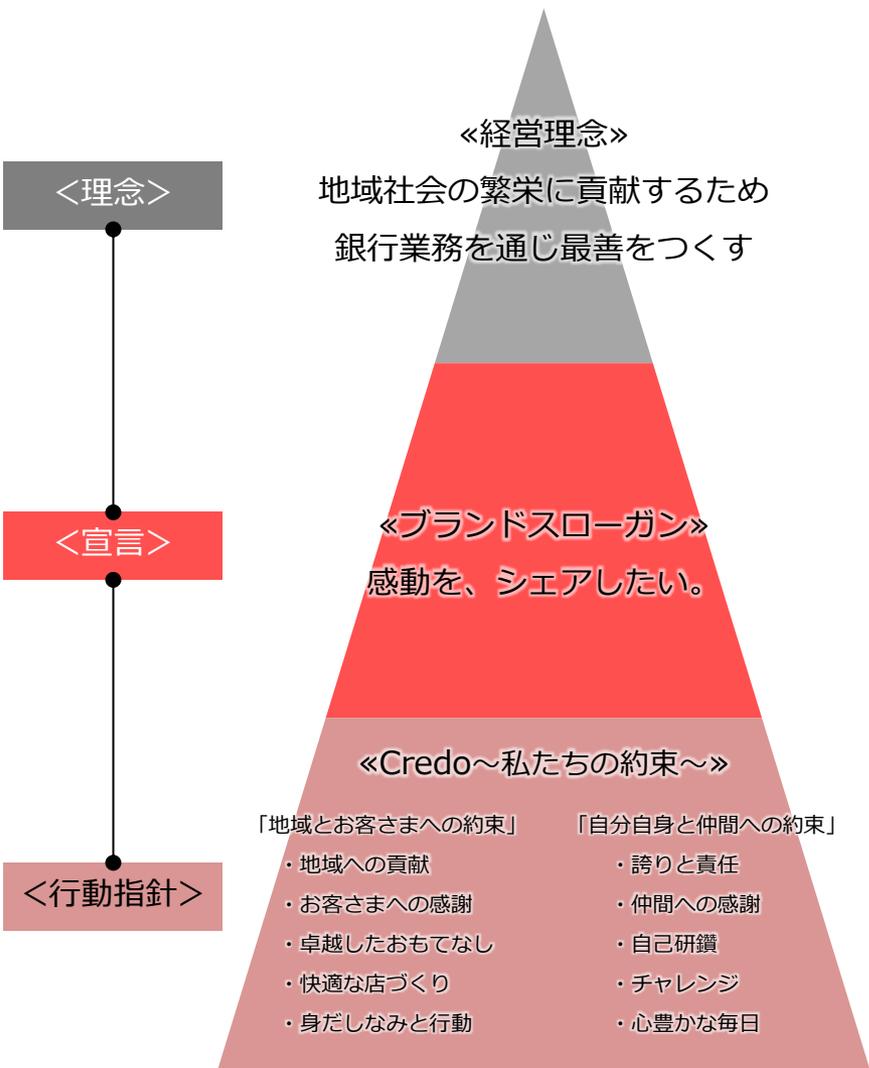
## 第13回「経営説明会」

# 大分銀行の平成25年度決算と経営戦略





## 経営理念 体系図



## 概要

平成26年3月31日現在

|       |   |  |
|-------|---|--|
| 本店    | ： | 大分市府内町3丁目4番1号                                      |
| 創立    | ： | 明治26年2月1日  |
| 資本金   | ： | 195億98百万円  |
| 従業員数  | ： | 1,733名（出向者および嘱託等を除く）                               |
| 店舗数   | ： | 101ヶ店（うち大分県内：90ヶ店）<br>（別途、代理店2ヶ店・東京事務所・香港駐在員事務所あり） |
| 預金等残高 | ： | 2兆6,720億円  |
| 貸出金残高 | ： | 1兆7,377億円  |
| 外部格付  | ： | A+（日本格付研究所）  |



平成26年6月26日現在

## 取締役

- (代表取締役) 取締役頭取 : 姫野 昌治
- (代表取締役) 専務取締役 : 三浦 洋一
- (代表取締役) 専務取締役 : 鈴木 崇之
- 常務取締役 : 清水 進英
- 常務取締役 : 後藤 富一郎
- 常務取締役 : 渡部 智弘 (昇任)
- 取締役相談役 : 小倉 義人
- 取締役 : 兒玉 雅紀
- 取締役 : 衛藤 秀樹
- 取締役 (社外) : 下田 憲雄
- 取締役 (社外) : 桑野 和泉

## 監査役

- 常勤監査役 : 広瀬 亨
- 常勤監査役 : 岩田 伸彦
- 監査役 : 河野 浩
- 監査役 : 小島 庸匡
- 監査役 : 薬師寺 十郎

## 執行役員

- 常務執行役員 : 平山 義雄 (昇任)
- 常務執行役員 : 菊口 邦弘 (昇任)
- 執行役員 : 疋田 一敏
- 執行役員 : 泥谷 利城
- 執行役員 : 木許 禎
- 執行役員 : 田中 秀幸
- 執行役員 : 田中 賢児 (新任)
- 執行役員 : 武島 正幸 (新任)



## I. 平成25年度決算

|                     |    |
|---------------------|----|
| 1. 【連結】損益概況         | 5  |
| 2. 連結当期純利益・連結自己資本比率 | 6  |
| 3. 【単体】損益概況         | 7  |
| 4. 当期純利益・自己資本比率     | 8  |
| 5. 金融再生法開示債権        | 9  |
| 6. 株主還元             | 10 |

## II. 営業の実績

|            |    |
|------------|----|
| 1. 預金等     | 12 |
| 2. 貸出金     | 13 |
| 3. 大分県内シェア | 14 |

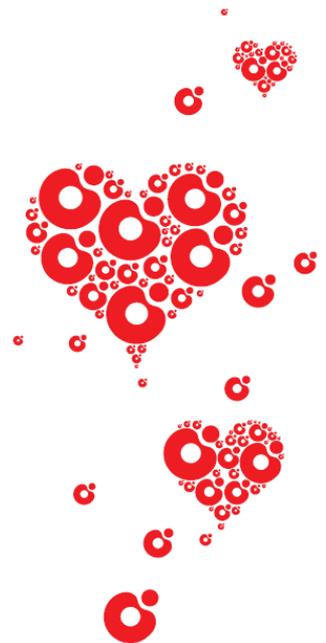
## III. 当行の経営戦略

|                   |    |
|-------------------|----|
| 1. 「中期経営計画2014」   | 16 |
| 2. 地域と一体となった成長、発展 | 17 |
| 3. お客さまとの接点の強化    |    |
| (1) 店舗機能の強化       | 18 |
| (2) 新たな取引チャネルの充実  | 19 |
| 4. 「感動を、シェアしたい。」  | 20 |





# I . 平成25年度決算



# 1. 【連結】損益概況



- ・資金利益の減少を、役務取引等利益にてカバーしたことから、連結粗利益は前年実績と同水準となりました。
- ・連結当期純利益は、貸倒引当金戻入益の計上により、前年対比+ 1 1 億円の8 3 億円となりました。

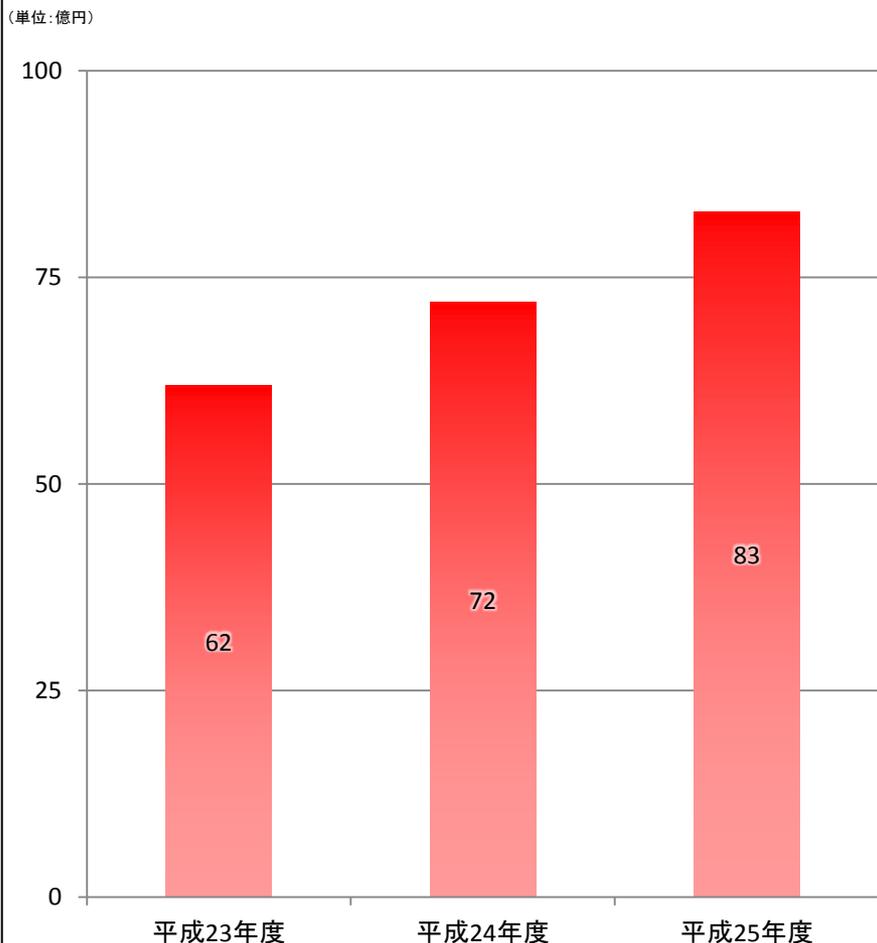
(単位: 億円)

|              | 平成24年度    | 平成25年度    | 増減        |
|--------------|-----------|-----------|-----------|
| 経常収益         | 568       | 590       | 22        |
| 連結粗利益        | 425       | 424       | ▲ 1       |
| 資金利益         | 339       | 335       | ▲ 4       |
| 役務取引等利益      | 59        | 62        | 3         |
| その他業務利益      | 27        | 27        | 0         |
| 営業経費         | 319       | 324       | 5         |
| 貸倒償却引当費用     | 18        | 0         | ▲ 18      |
| 個別貸倒引当金繰入額   | 34        | —         | ▲ 34      |
| 一般貸倒引当金繰入額   | ▲ 15      | —         | 15        |
| 貸倒引当金戻入益     | —         | 34        | 34        |
| 株式等関係損益      | ▲ 2       | 5         | 7         |
| その他          | 15        | 10        | ▲ 5       |
| 経常利益         | 102       | 148       | 46        |
| 特別損益         | 7         | ▲ 5       | ▲ 12      |
| 税金等調整前当期純利益  | 109       | 143       | 34        |
| <b>当期純利益</b> | <b>72</b> | <b>83</b> | <b>11</b> |

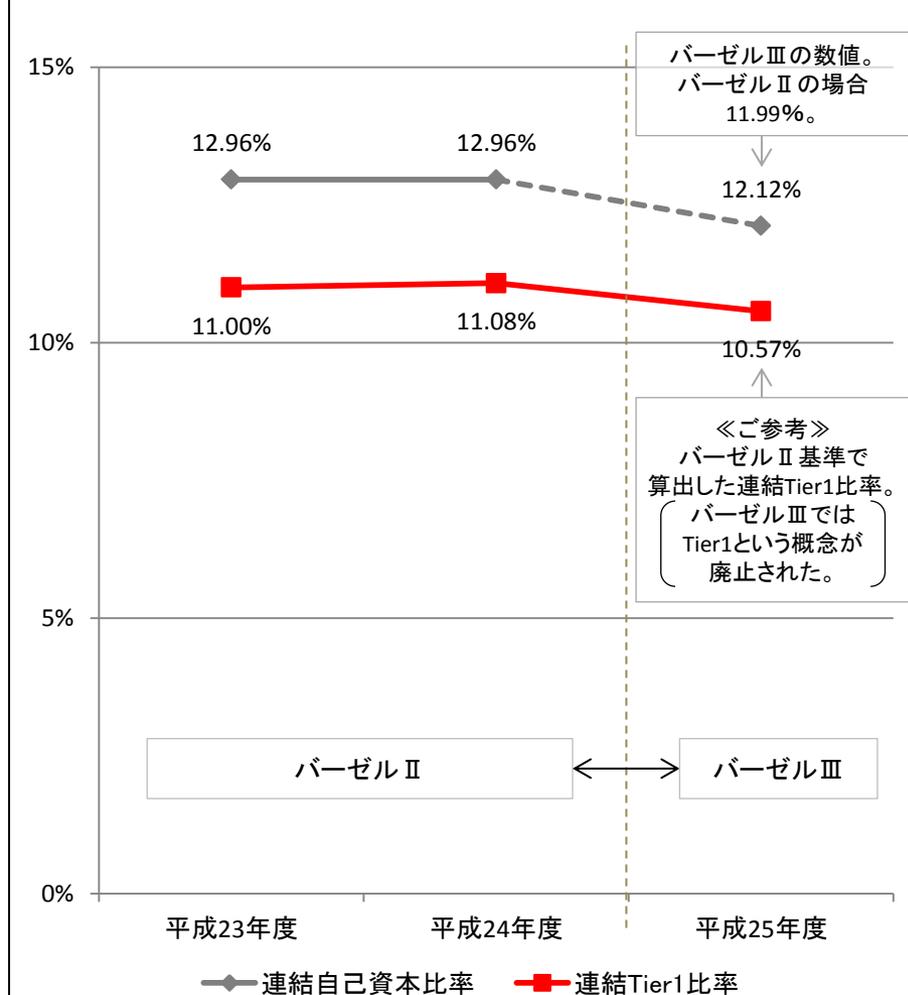
## 2. 連結当期純利益・連結自己資本比率

- ・連結当期純利益は、平成23年度以降の3年間で62億円、72億円、83億円と堅調に推移しております。
- ・連結自己資本比率は、基準が異なり単純比較はできないものの、リスクアセットの増加の影響もあり、若干低下しました。

連結当期純利益の推移



連結自己資本比率の推移



### 3. 【単体】損益概況



- ・システム移行に伴う減価償却負担の増加等により、一般的に銀行の本業の収益力を示すといわれるコア業務純益は、前年対比減少しました。一方で、貸倒引当金戻入益の計上により、当期純利益は前年対比+16億円の70億円となりました。

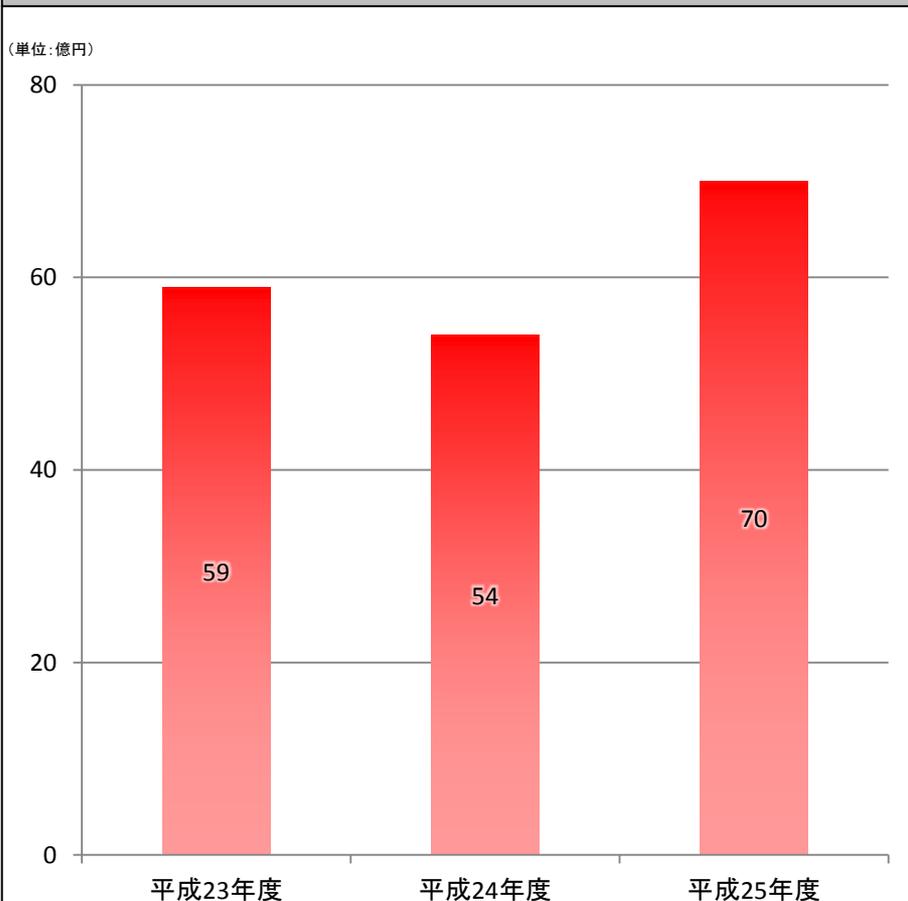
(単位:億円)

|                        | 平成24年度    | 平成25年度    | 増減        |
|------------------------|-----------|-----------|-----------|
| 経常収益                   | 475       | 497       | 22        |
| コア業務粗利益                | 383       | 382       | ▲1        |
| 業務粗利益                  | 397       | 395       | ▲2        |
| 資金利益                   | 333       | 329       | ▲4        |
| 役務取引等利益                | 50        | 52        | 2         |
| その他業務利益<br>(うち国債等債券損益) | 13        | 13        | 0         |
| 経費                     | 299       | 310       | 11        |
| 業務純益(一般貸倒繰入前)          | 97        | 85        | ▲12       |
| コア業務純益                 | 84        | 71        | ▲13       |
| 一般貸倒引当金繰入額①            | ▲13       | —         | 13        |
| 業務純益                   | 111       | 85        | ▲26       |
| 臨時収支                   | ▲23       | 50        | 73        |
| 不良債権処理費用②              | 30        | 0         | ▲30       |
| 貸倒引当金戻入益③              | —         | 36        | 36        |
| 株式等関係損益                | ▲1        | 4         | 5         |
| 経常利益                   | 87        | 135       | 48        |
| 特別損益                   | ▲6        | ▲13       | ▲7        |
| 信用コスト(①+②-③)           | 17        | ▲36       | ▲53       |
| 税引前当期純利益               | 81        | 122       | 41        |
| <b>当期純利益</b>           | <b>54</b> | <b>70</b> | <b>16</b> |

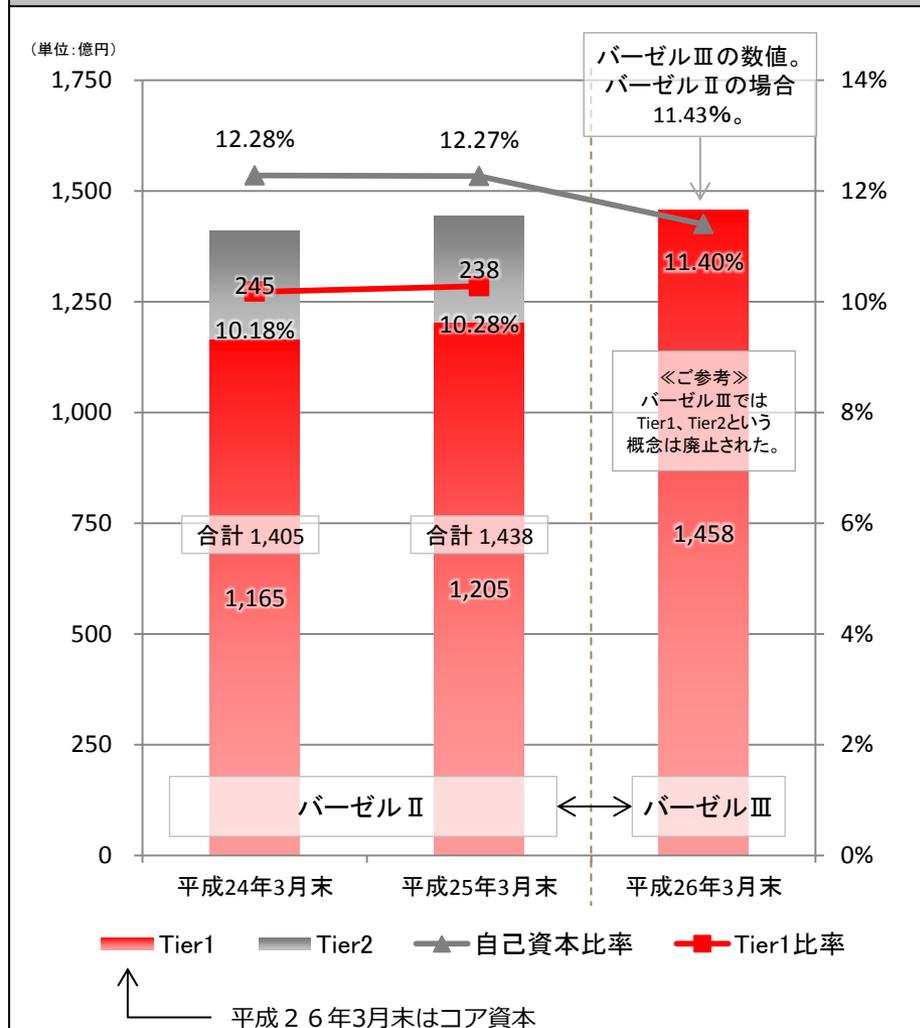
# 4. 当期純利益・自己資本比率

- ・当期純利益は、平成23年度以降の3年間で59億円、54億円、70億円と堅調に推移しております。
- ・自己資本比率は、連結同様、前年対比若干低下しましたが、国内基準の4%を大きく上回る水準を維持しております。

当期純利益の推移

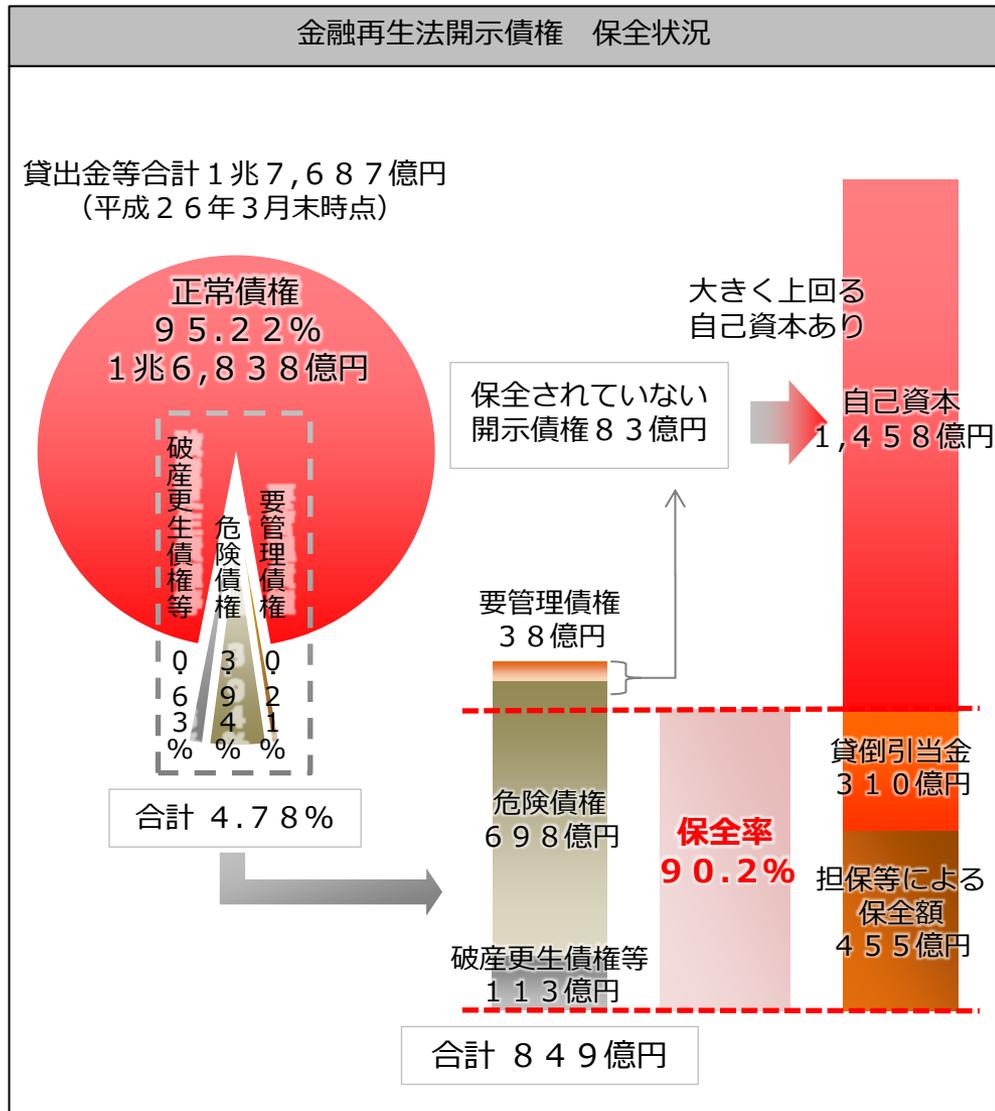
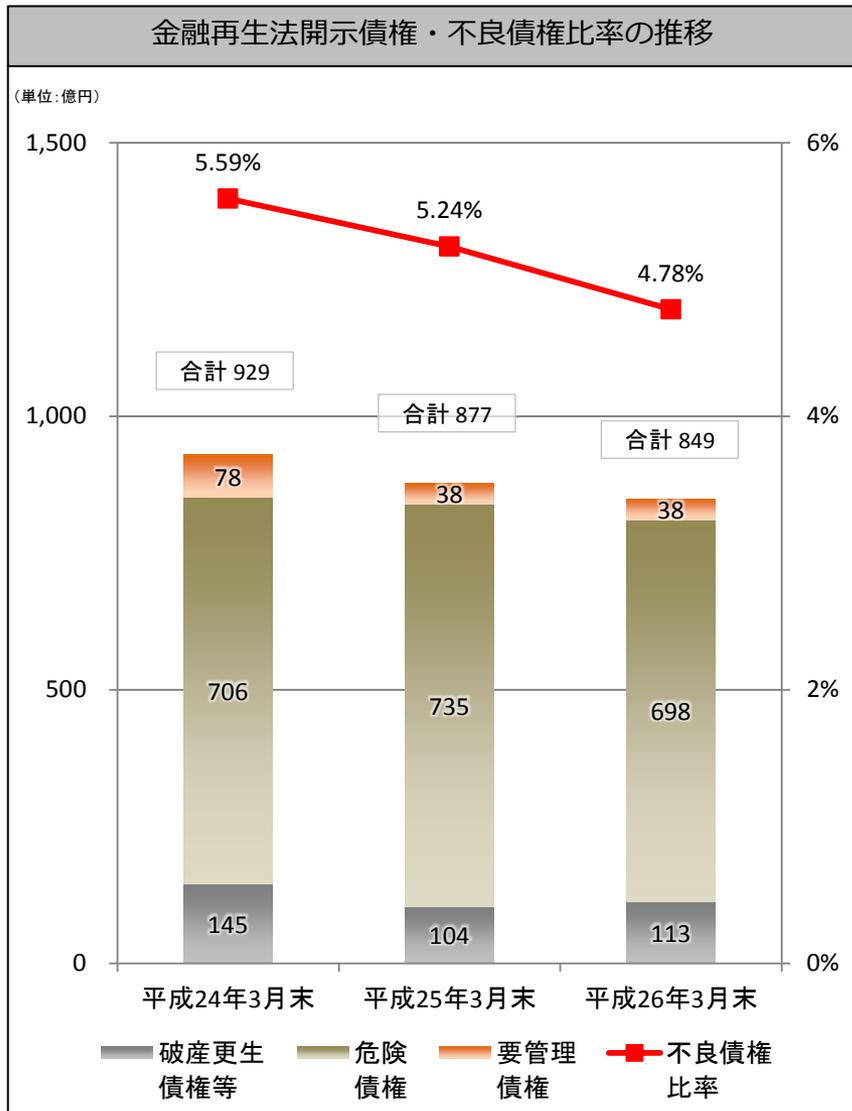


自己資本額・自己資本比率等の推移



# 5. 金融再生法開示債権

- ・ 開示債権額 849 億円のうち、貸倒引当金および担保等による保全率は 90.2% と高い水準にあります。
- ・ 保全されていない 83 億円については、自己資本 1,458 億円にて十分にカバーされております。



## 6. 株主還元

- ・年間6円の配当を継続しており（平成24年度は記念配当あり）、引き続き安定した配当を重視してまいります。
- ・平成25年12月から翌年2月に、総額約20億円の自己株式の取得を行ったため、株主還元率は42.5%となりました。

### 配当額の推移

|              |    | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 |
|--------------|----|--------|--------|--------|
| 1株あたり<br>配当額 | 中間 | 3円     | 3円     | 3円     |
|              | 年間 | 6円     | 7円(※)  | 6円     |

(※) 平成24年度の年間7円のうち1円は創立120周年記念配当。

### 自己株式の取得

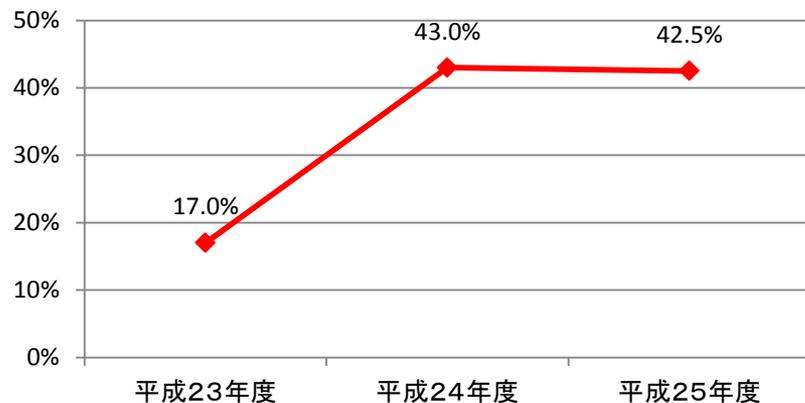
|            |                        |
|------------|------------------------|
| 取得した株式の種類  | 普通株式                   |
| 取得した株式の総数  | 5百万株                   |
| 株式の取得価格の総額 | 1,998百万円               |
| 取得期間       | 平成25年12月10日～平成26年2月10日 |
| 取得方法       | 市場買付                   |

### 株主への利益配分の状況

(単位:百万円)

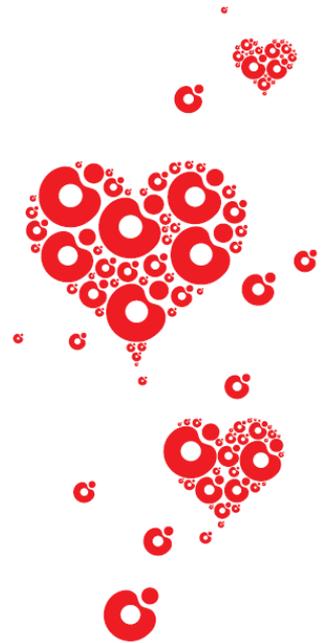
|         | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 |
|---------|--------|--------|--------|
| 年間配当額   | 1,028  | 1,164  | 983    |
| 自己株式取得額 | -      | 1,182  | 1,998  |
| 株主還元額   | 1,028  | 2,346  | 2,981  |
| 当期純利益   | 5,950  | 5,453  | 7,012  |
| 配当性向    | 17.0%  | 21.2%  | 14.0%  |
| 株主還元率   | 17.0%  | 43.0%  | 42.5%  |

### 《株主還元率の推移》





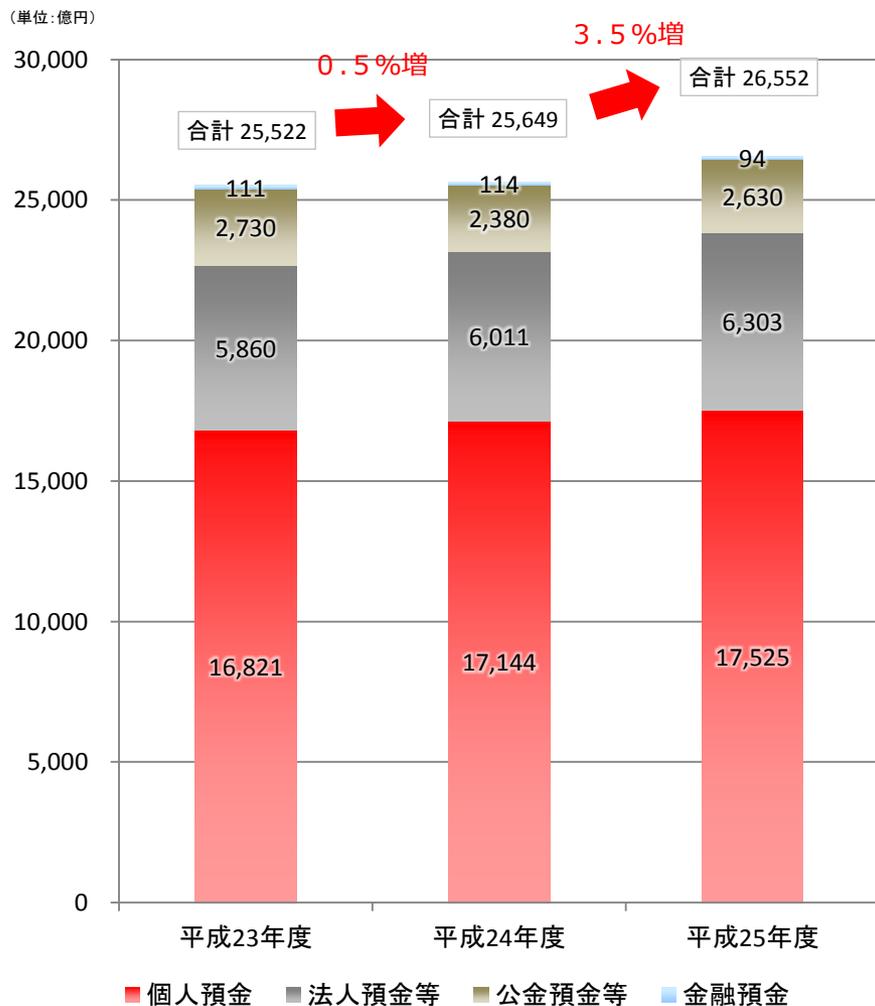
## Ⅱ. 営業の実績



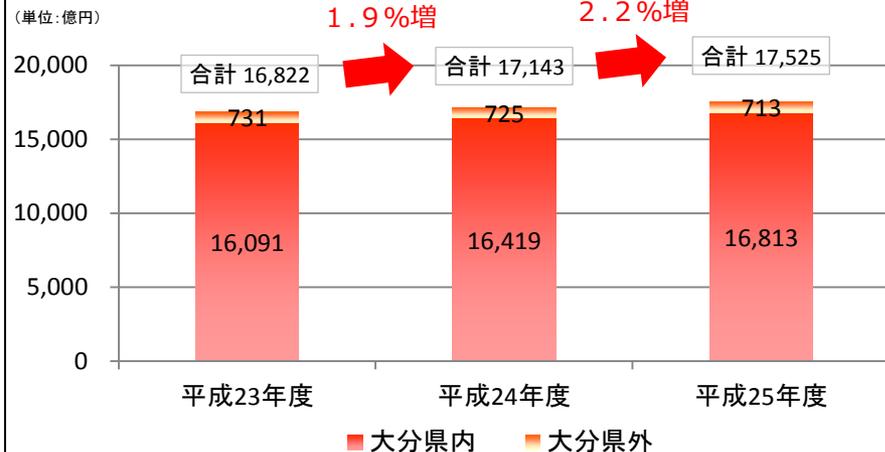
# 1. 預金等

- ・預金等の通期平均残高は順調に増加しており、平成25年度の年率は+3.5%となりました。
- ・個人預金、法人預金についても、主たる営業地域である大分県を中心に、残高は順調に増加しております。

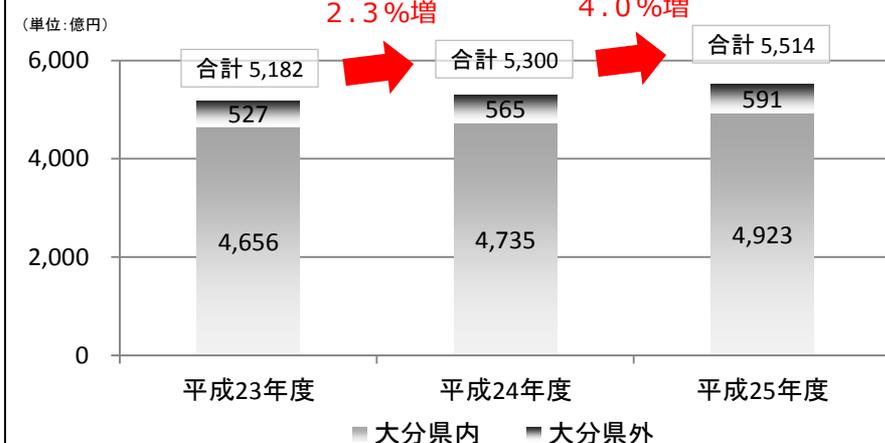
### 預金等「通期平均残高」推移



### 個人預金「通期平均残高」推移



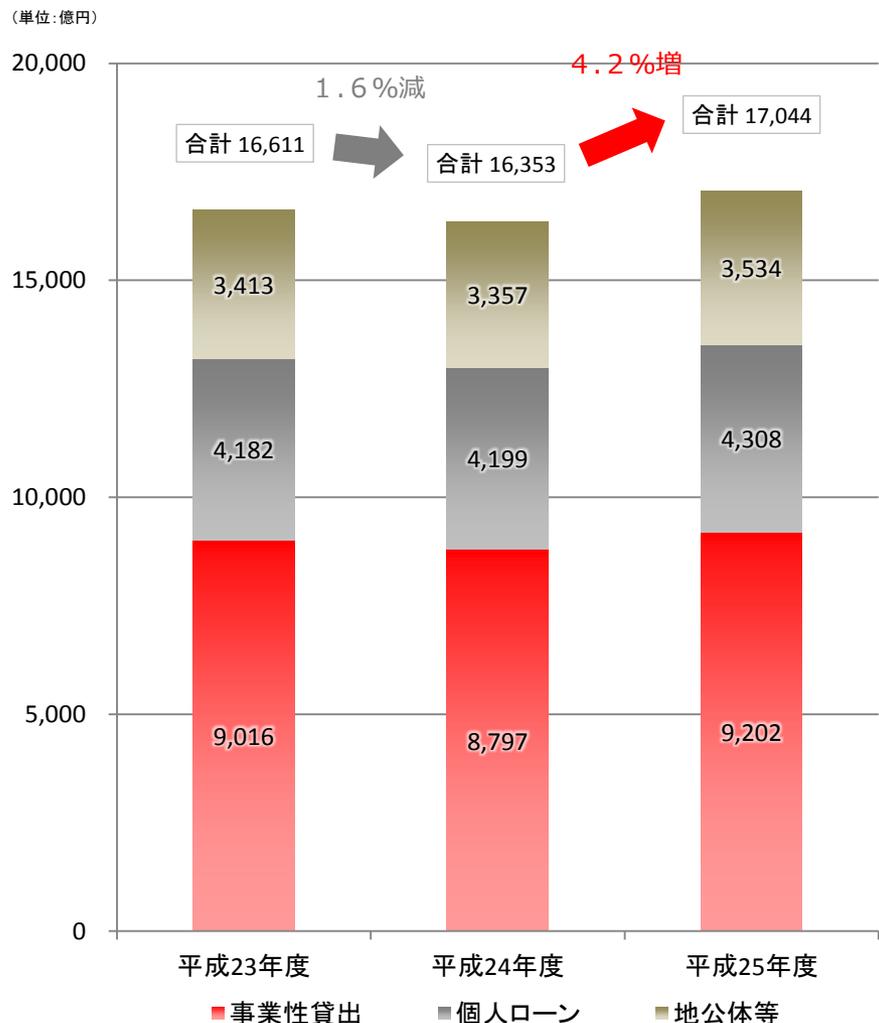
### 法人預金「通期平均残高」推移



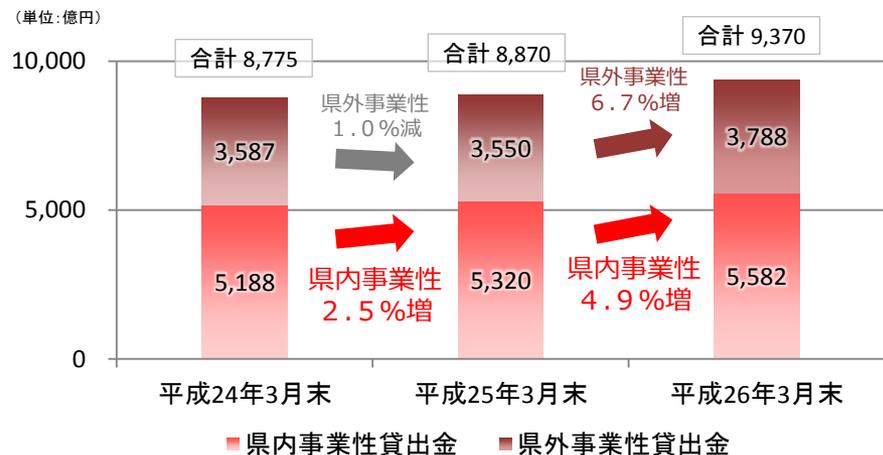
## 2. 貸出金

- ・全行一丸となって「地域密着化戦略」に取り組んだ結果、総貸出金の通期平均残高の年率は+4.2%となりました。
- ・大分県内の事業者のお客さま向けの貸出金および収益性の高い無担保ローンについても、残高は順調に増加しております。

### 貸出金「通期平均残高」推移



### 事業性貸出金「期末残高」推移



### 個人ローン「期末残高」



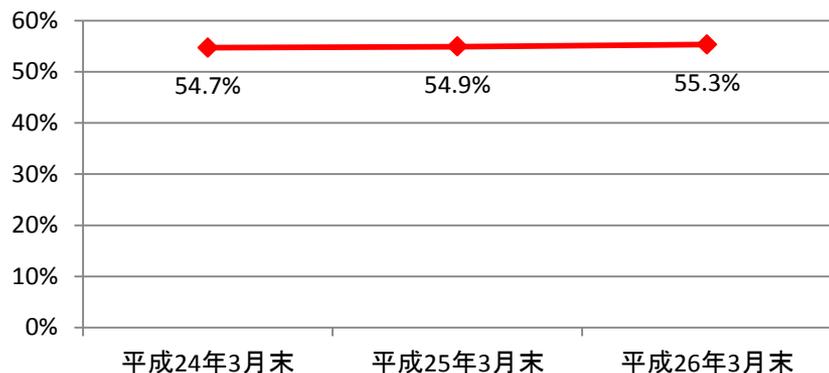
### 3. 大分県内シェア



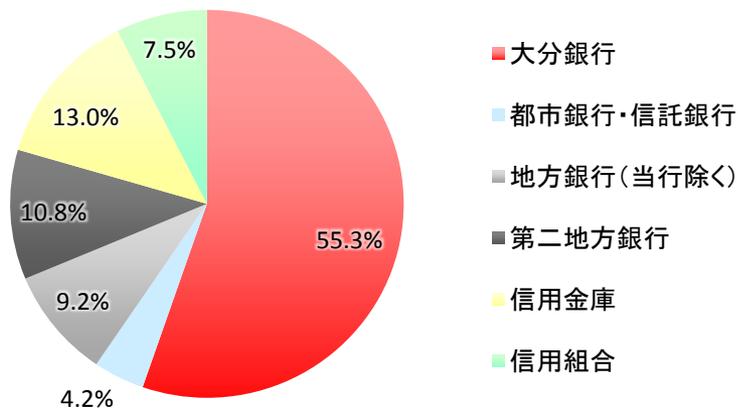
・お客さまとの永続的な取引関係の構築に取り組んだ結果、平成26年3月末時点の大分県内シェアは、預金等55.3%（前年対比+0.4ポイント）、貸出金48.9%（前年対比+0.6ポイント）と、預貸金共に上昇しました。

#### 預金等

「預金等 大分県内シェア推移」

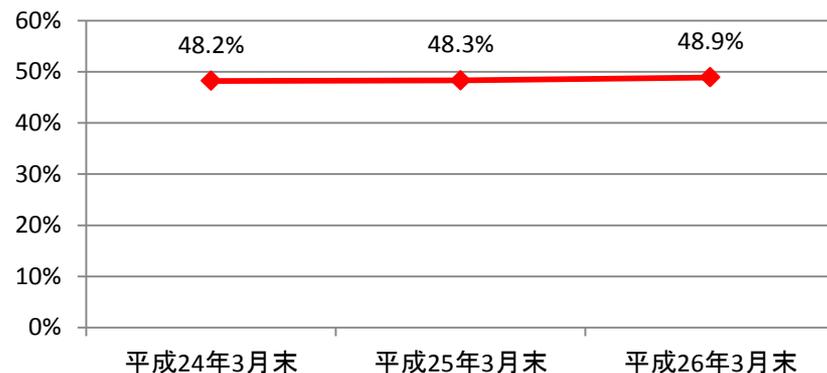


「預金等 平成25年3月末時点 大分県内シェア」

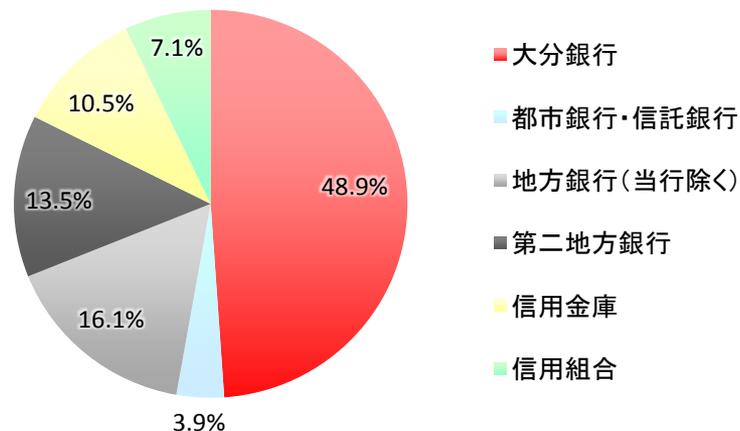


#### 貸出金

「貸出金 大分県内シェア推移」



「貸出金 平成25年3月末時点 大分県内シェア」



# Ⅲ. 大分銀行の経営戦略



# 1. 「中期経営計画2014」

- 「中期経営計画2014」（H26.4～H28.3：2年間）においては、PDCAの「Do」（実践・行動）の比重を大幅に高め、全行一丸となって引き続き「地域密着化戦略」を推し進めてまいります。

## 「中期経営計画2014」の体系図

【基本テーマ】  
（スローガン）

**SPEED & CHALLENGE!**

【ビジョン】  
（目指す姿）

地域の豊かな未来を創るために、  
あふれる情熱を持って行動する銀行

【基本方針】  
（共通理念）

収益力の強化

【大前提】

持続的利益

事業の継続

コンプライアンス

基本方針に基づく「重要課題」と「取組項目」

競争に打ち勝つ営業の実践

- CEの実現によるお客さまとの絆の強化
- お客さまとの持続的な取引関係の構築に向けた営業推進の実践

営業に注力できる事務態勢の構築

- 業務の抜本的な見直し
- IT戦略の高度化

挑戦、行動する人財の育成

- 付加価値を生み出す人財の育成
- 情熱を持ち収益を追求する組織の構築

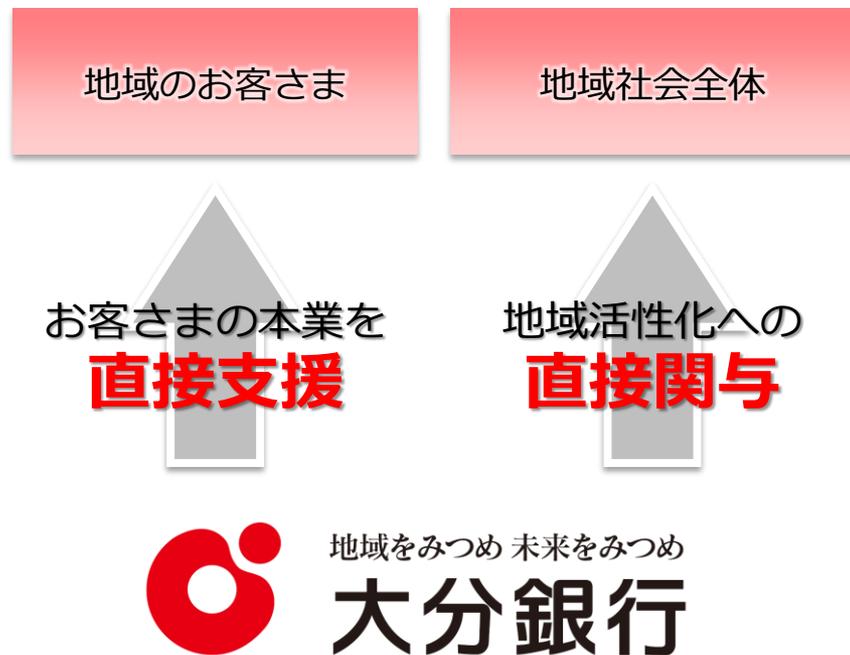
成長に向けた経営基盤の強化

- リスクマネジメントの高度化
- 地域活性化への主体的な取組み

## 2. 地域と一体となった成長、発展

- ・大分銀行はグループ一丸となって、自らの成長、発展と一体の関係にある地域の面的な活性化に取り組んでまいります。
- ・大分銀行の全役職員は、自らのふるさとである大分の活性化に対して、あふれる情熱を持って取り組んでまいります。

### 地域と一体となった成長、発展



大分銀行グループの成長、発展は、地域と一体の関係にあります。

大分銀行グループは地域のお客さま、そして地域社会全体の成長、発展に向けて、積極的に直接支援、直接関与を実践してまいります。

### 大分銀行の「Credo」（信条、行動指針）

**Credo**

～私たちの約束～

 地域をみつめ 未来をみつめ  
大分銀行

「地域とお客さまへの約束」

【地域への貢献】

私たちは、地域を愛し、  
地域の発展のために行動します。

大分銀行の役職員は、一時的に大分に赴任しているわけではなく、自らはもちろんのこと、家族も大分で生活している「大分県民」です。

大分銀行の役職員は、自らのふるさとである大分の活性化に対してあふれる情熱を持っています。

大分銀行は全役職員が一丸となって、地域の活性化に組み、地域社会の繁栄に貢献し続けてまいります。

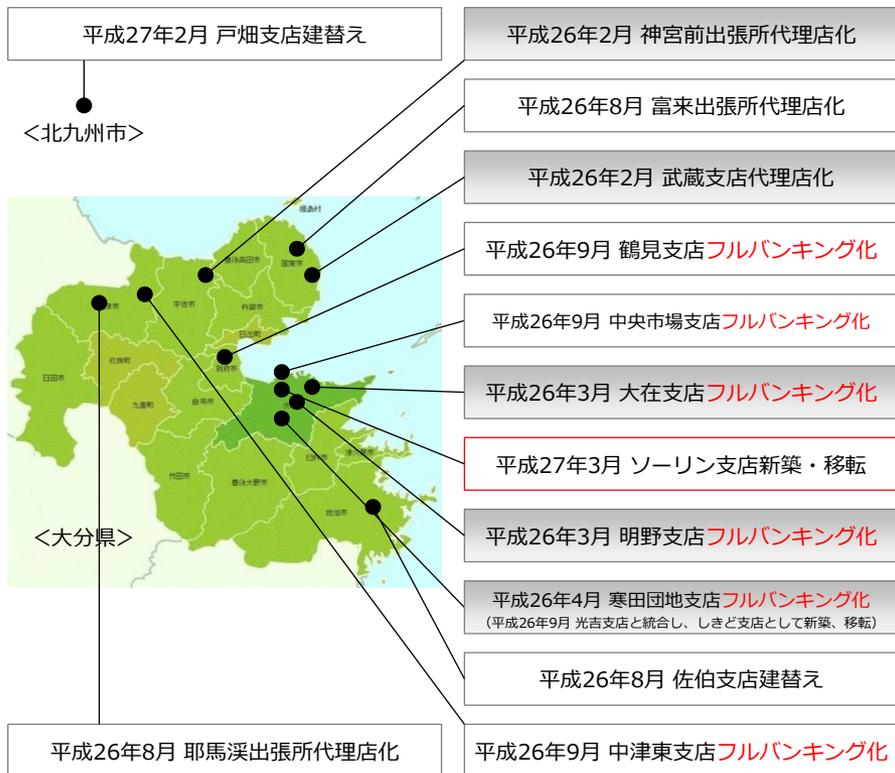
### 3. お客様との接点の強化 (1) 店舗機能の強化



・お客様との接点（店舗チャネル）を更に強化するため、店舗機能の強化を推し進めています。また、平成27年春にオープンする「大分銀行 宗麟館」は、「ビジネスの出会いの場」や「地域活性化の拠点」としても活用します。

#### 【平成26～27年 機能強化と効率化対象店舗】

（グレーの背景は実施済事項、白の背景は実施予定事項）



個人向けのサービスに特化していた6店舗を、事業性融資を取扱う店舗に変更し、機能強化を行います。

#### 【大分銀行 宗麟館・ソーリン支店の新築】

（平成27年春オープン予定）



「大分銀行 宗麟館」および「ソーリン支店」は、大分県を代表する戦国大名である「大友宗麟」から取ったネーミングです。

総合デザインは、水戸岡鋭治氏が担当します。

当ビルは、「ビジネスの出会いの場」や「地域活性化の拠点」としても活用します。



### 3. お客様との接点の強化 (2) 新たな取引チャネルの充実

・多様化するお客様のニーズに的確に対応し、お客様の更なる利便性向上を実現するため、既存店舗・ATM網を補完し、相乗効果を発揮するための、新たな取引チャネルの充実に取り組んでおります。

#### 新チャネル TOPIX①

#### スマートフォン・タブレット用 大分銀行オリジナルアプリケーション

平成25年11月、マイメロディを活用したオリジナルアプリケーションの提供を開始しました。



オリジナルアプリケーションの画面の一例

#### 新チャネル TOPIX②

#### SNS等の活用

平成25年11月、Facebook、Twitter、YouTubeを活用した情報発信等を開始しました。



Facebookトップページのスクリーンコピー

#### 既存店舗・ATM網に

#### 新チャネルを追加

#### 新チャネル TOPIX③

#### セブン銀行ATM利用時間の24時間化

平成26年4月、お客様の利便性向上のため、セブン銀行ATMで24時間取引可能としました。



#### 新チャネル TOPIX④

#### インターネット支店 (平成26年8月開設予定)

平成26年8月、近隣に店舗のないお客様にも安心してお取引をご継続頂けるよう、インターネット支店を開設予定。



現在の大分銀行ホームページのスクリーンコピー

## 4. 「感動を、シェアしたい。」

- ・経営理念の実現に向けて、大分銀行の全役職員が、地域や一人ひとりのお客さまに宣言する言葉として、また、目指す姿に向かっていくための旗印として、平成25年11月、ブランドスローガン「感動を、シェアしたい。」を制定しました。

### 地域のお客さまとの取引における基本姿勢

「必ず地域を活性化し、豊かな未来を創る」という強い決意を持ち、知恵を振り絞り、あふれる情熱を持って行動する行員の姿勢を、地域の皆さまにメッセージとして届けるため、平成25年11月、大分銀行ブランドスローガン「感動を、シェアしたい。」を制定しました。

大分銀行は、「地域に根差したサービスを実践し、高い価値を生み出す銀行」であり続けるために、全役職員一丸となって、地域の皆さまとの共有価値の創造（「三方よし」の実現）に取り組んでまいります。



大分銀行ブランドCM「歴史編」



大分銀行ブランドCM「行員編」



大分銀行ブランドCM「母の笑顔編」  
(第53回 福岡広告協会賞「銀賞」受賞)



大分銀行ブランドCM「誕生日編」



# 感動を、 シェアしたい。

夢を共に分かち合う。厳しさを共に実感する。長い時間を共に過ごし、考え抜き、とことん話し合う。

それも、ひとりの行員とお客さまという関係を超え、何としてもお役に立ちたいという、執念に近い情熱。

アイデアにあふれ、期待に応える提案。また、ひとりの人間としての信頼。そこで、はじめて、強い絆が生まれる。

やりきること。挑戦すること。諦めないこと。

そして、地域の皆さまやお客さまと、その発展・成功を共に喜び、「大分銀行で良かった」と感動して頂くこと。

それが私たちの、感動です。

